

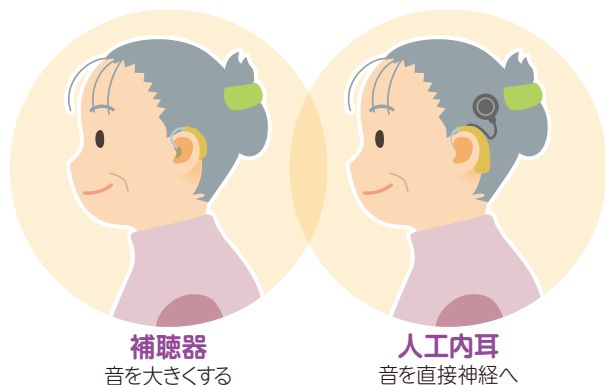
補聴器、人工内耳について

加齢性難聴は早めに補聴器で聞こえをサポートする事が大切です。補聴器は「聞こえ」を補助する機器で、使用することで周囲とのコミュニケーションがとりやすくなります。ただし、眼鏡をかけたらすぐに見えるのとは異なり、補聴器をつけたらそれだけですぐに聞こえが良くなるわけではありません。

補聴器を使用するためには耳の聞こえの状態の確認や難聴の原因の精査が必要なため、自己判断で集音器などを使うのではなく、耳鼻咽喉科を受診してください。効果を得るためには、ご自身の聴力に合うように補聴器を丁寧に調整してもらい、時間をかけてゆっくりとトレーニングしていくことが重要です。

補聴器を使用しても聞き取りが不十分な重度難聴の場合、人工内耳が有効な場合もありますので、耳鼻咽喉科専門医へご相談ください。

高度・重度難聴で身体障害者手帳の交付を受けた場合、補聴器や人工内耳購入の際に国から補装具費支給制度があります。(所得による例外があります。)



聴力低下を防ぐために 日常生活で気を付けること

- 1 大音量でテレビを見たり音楽を聴いたりしない
- 2 イヤホンで大きな音を聞かない
- 3 工事現場やコンサート、パチンコ店など大きな音を発する場所を避ける
- 4 騒音の中で仕事をしている場合は耳栓をする
- 5 静かな場所で耳を休ませる時間をつくる



聞こえにくいと感じたら

難聴は加齢以外の原因もあり、早期治療が必要な場合もあります。少しでも聞こえづらと感じたら、早めに耳鼻咽喉科を受診するようにしましょう。

お問い合わせは…

公益社団法人 石川県言語聴覚士会 事務局 総務部

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町ア部6番地4
公立能登総合病院
リハビリテーション部内

E-mail info@st-ishikawa.com

H P https://st-ishikawa.com

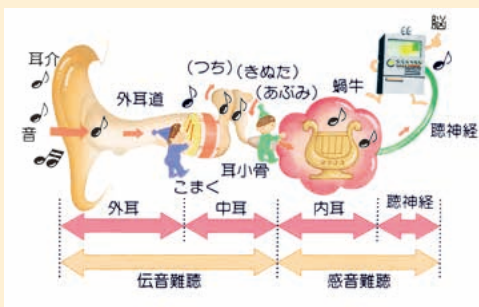
加齢性難聴



難聴とは？

外耳より入った音刺激が脳に達する経路のうち、どの部分に病変があっても難聴（聞こえにくい状態）が出現します。（下図参照）

音が伝わる経路



提供「リオン株式会社：補聴器コンサルトの手引」

高齢者の難聴の原因として多いのは加齢による感音難聴です。加齢によって、内耳の有毛細胞が傷んだり減少するために、音が脳に伝わりにくくなります。さらに、神経経路がスムーズに働かず、脳の聞き取る力が弱まることも関係しています。主に動脈硬化などの健康要因、騒音などの生活習慣が関与していると考えられています。



加齢性難聴のサインに 気づこう

症状チェック! 当てはまることはありませんか？

☐ 小さな声や
ささやき声が
聞き取りにくい

☐ 人の話を
聞き返すことや、
聞き間違いが多くなった

☐ テレビの音がうるさいと
家族に言われる

☐ 音が響いて、
聞き取りにくい

☐ 音が重なったように
聞こえる

☐ 耳に痛みや
違和感がある

☐ 耳鳴りがする

…など



難聴を放置すると…

ドアホンや目覚まし、
家電製品の音など
必要な音が聞こえない

家族や友人との
コミュニケーションが
うまくいかず、外へ
出かけたくなる

危険を察知する
能力が低下する

自信がなくなる

認知症発症の
リスクが高まる

など、
日常生活に大きな影響を与えます。

